

「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」重点取組期間中における

神奈川労働局長による熱中症予防パトロール

— 7月5日（火） 於：日産自動車株式会社 追浜工場 —

神奈川労働局（局長 西村 斗利）では、「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」重点取組期間である7月を迎え、神奈川労働局長による熱中症予防パトロールを実施しました。

1 趣旨

今年（令和4年）の神奈川県下における熱中症による休業4日以上の特徴者は、梅雨明け前に既に2人出ており、また今年も、梅雨明けが早かったことで暑い期間が長くなり、平年よりも気温が高くなると予想されますので、熱中症の予防に厳重に警戒していく必要があると考えられます。

そこで神奈川労働局では、「STOP！熱中症クールワークキャンペーン」重点取組期間を迎え、当局の西村局長が直接指揮をとり、熱中症予防対策を推進する趣旨で、熱中症予防に積極的に取り組んでいる事業所へのパトロールを実施いたしました。

2 パトロールの概要

（1）日 時

令和4年7月5日（火） 13時30分から15時30分まで

（2）パトロール対象事業所

日産自動車株式会社 追浜工場（横須賀市夏島町1番地）

（3）パトロール実施者

神奈川労働局職員計5名（局長、健康課長、労働衛生専門官、横須賀監督署監督官）

（4）パトロールにより、熱中症予防対策の確認された事項

- ①冷蔵庫内の経口補水液、及び塩飴の常備（個人の体調管理がしやすい環境づくり）
- ②スポットクーラー（作業員近辺の温度の低減）
- ③ジェットファン（工場内の温度の低減）
- ④空調服（作業員自身の体温上昇を抑制）
- ⑤マジックアイス（作業員自身の体温上昇を抑制）
- ⑥クールベスト（作業員自身の体温上昇を抑制）
- ⑦冷感マスク（クールマックスZ）（作業員自身の体温上昇を抑制）
- ⑧リストバンド型バイタルセンサー（ハモンバンド）（作業員の客観的身体状況把握）
- ⑨ドリンクタイム（個人の体調管理がしやすい環境づくり）
- ⑩暑さ指数（WBGT値）の活用（作業環境の把握と評価の指標に利用）

3 パトロールの状況写真



パトロールに先立ち、参加者が集合し、打合せを行っているところです。

局長が、冷蔵庫内の経口補水液、及び塩飴の常備、並びにスポットクーラーの活用状況について、説明を受けているところです。



自動車の組立ラインに効率よくジェットファンを配置し、組立ラインへの気流を確保しております。

作業者が電動ファン付きの空調服を着用し、快適に作業を行っています。



作業者が冷媒（マジックアイス）を装着し、首周りの涼感を得ています。

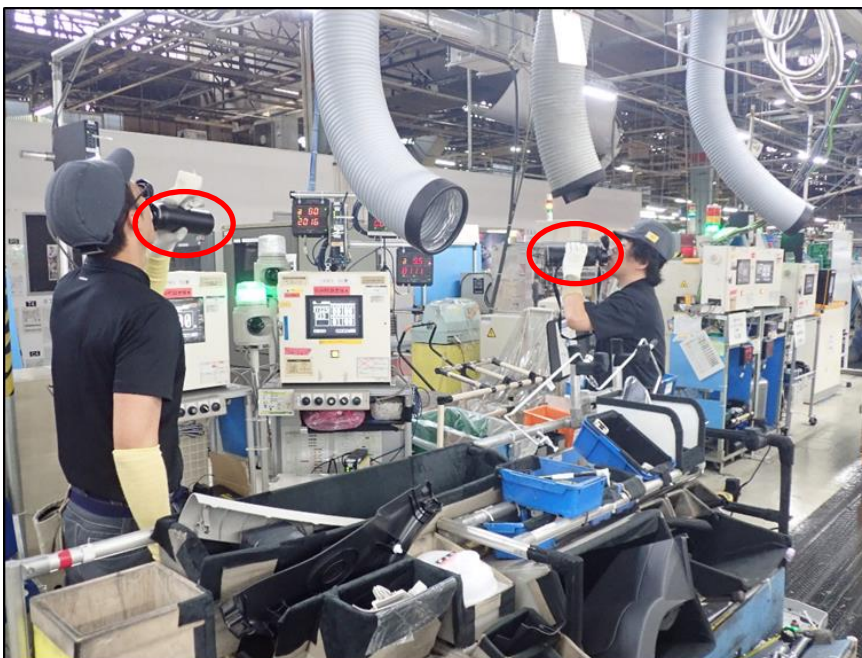
作業者が冷媒入りのクールベストを着用し、快適に作業を行っています。





作業者が冷感マスク（クールマックスZ）を着用し、快適に作業を行っています。

作業者がリストバンド型バイタルセンサー（ハモンハンド）を装着することにより、熱中症による体調の変化をいち早く感知し、作業者本人に知らせるシステムを導入しています。（アラームとバイブレーション機能により、本人に体調の変化を客観的に知らせます。）



通常の休憩時間以外に決められた時間に「ドリンクタイム」を設け、作業者が休憩と給水が取れるように工夫しています。

夏季温度測定を実施し、暑さ指数（WBGT値）による色分け基準により、測定結果を工場レイアウトマップに落とし込み、熱中症予防管理に役立てています。



まとめ

熱中症予防対策は、近年の気候変化に伴い、症状の危険性については広く周知されてきています。しかし、まだ、職場においては対策が十分にできないところも少なくありません。

職場において熱中症予防対策を推進するためには、事業場トップの発信が重要であり、経費面での対応も必要な場合もあるのが一般的です。

今回のパトロールにおいては、PDCA サイクル(計画・実行・評価・改善)を機能させ、スパイラル状に計画的に職場環境改善が図られている事例が確認できました。

PDCA サイクルにおいて、経年的に上記のように WBGT 値の色分け基準を設け、毎年の記録を蓄積し、その変化を見ることによって適切な評価（赤色の高い値を示していた場所が徐々に減っていった）につながり、改善においても作業場所の状況の改善（通風、風の流れ、直射日光による工場内の温度変化の改善）に加え、作業員個人の身体状況の把握にも、その時々々の先端のもの（リストバンド型バイタルセンサーなど）を導入してみるなど柔軟な発想と取組が適宜取り入れられていました。

また、課題となりがちな経費の問題についても、「日産自動車は、日本のものづくり改革として、日本の工場に対しても必要な投資や仕組みの強化を行い、更に飛躍していくことを目指している中で、作業環境に対しても重点的に取り組んでいく。」という社内理念の下、職場環境改善（熱中症対策のみならず、トイレ等衛生設備の改修など）のための経費支出に柔軟に対応されていました。

これらの改善により、雇用創出、人材確保にもつながる期待は大きいと考えます。

最後に、「他人を思いやる心と想像力でリスクを顕在化する。」ことを重点に、「安全第一を基本に全員で災害のない職場を継続して実現する。」との工場長の安全理念が発信されており、さらにスパイラルアップされ、より快適な職場環境が形成されることが期待されるパトロールとなりました。